

茨城県日立市立泉丘中学校（学校長 高倉 克実）

実施日	平成20年2月22日（金）	時間	午前9時～午後3時
実施場所	体育館、1年生教室、多目的室	対象/人数	中学1年生 230名
担当教諭	綿引 亜希子、西田 奈奈江	ファシリテーター	横田 寿子
講師	周 悦（中国・留学生） オレリアン・パロン（フランス 県国際交流員） ラビンダラ・ジャヤセカラ（スリランカ・留学生） ジョナサン・マイケルズ（アメリカ 県国際交流員） リー・ペイ・リン（マレーシア）/ パク・ミィジョン（韓国）		

活動内容

日本の紹介・日本文化紹介（剣道・柔道・琴の演奏）
 講師の国の紹介
 給食

児童の感想

- ・外国と日本では違いが多いことがわかった。中国と日本の「近い」の意味や、スリランカには地震や火山がないことなどに驚いた。
- ・私は、外国人に対して見えない壁を作っていたことに気づいた。どのように接したらいいのかとまどいがあったが、講師の先生方がとても友好的で考え方が変わった。
- ・日本の伝統的な遊びは、ほとんどやる機会が無いものなので楽しむことができた。講師の先生にも喜んでもらえてうれしかった。日本の印象を聞いたときに、日本人は優しいと言われて誇らしく思った。
- ・「日本語は美しい言葉だ」と聞いて驚いた。普段私たちが使う言葉には、人を傷つける言葉が飛び交っていることを恥ずかしく思った。「日本語を覚えたい」この願いだけで日本に来たことに、心を動かされた。
- ・ワールドキャラバンを行う意味がわかった。互いの国について相手に伝えあい、触れ合うことができるからだ。普段の何気ない生活の中でも自分の国を大切にしていこうと思った。

先生の感想

- ・国旗の意味、その国の言葉などの下調べをしたことにより、世界各国についての興味が深まり、交流タイムでは生徒が積極的に参加できた。閉会セレモニーでは、講師の先生のパフォーマンスにあわせ、生徒の合唱発表を行うことで、笑いと感動のある式になった。
- ・中学校でのワールドキャラバンは、初めてであったが、中学生の方が幅広い分野の話が理解でき、自主的なかわり合いができることがわかっ

て驚いた。講師の方の熱心な活動やお話を聞いて生徒たちは魅了されていた。

- ・講師の方に、日本の印象や日本人の温かさを話してもらい、生徒たちの誇らしい顔を見ることができた。
- ・生徒が生き生きと活動していた。予想以上に集中し、自己表現もできてよかった。

成果と課題

- ・講師の方の日本語が上手だったので、生徒も打ち解けやすく、積極的にコミュニケーションをとる姿がみられた。生徒は自国について改めて考える時間と、他国との文化や習慣の違いを発見できて良い国際交流ができた。
- ・交流タイムにおいては、日本の紹介の時間がなくてもよいくらい、講師の先生方の話に興味をもてた。各国の調べ学習の時間がもう少しあると、2カ国についてより深く交流できたと思う。下調べをはじめとして、相手国の方々への気遣いなどについての指導もじっくり行うべきであった。ワールドキャラバンを行う意義について、事前に教師と生徒と一緒に考える時間が必要であった。講師の方とたくさん触れあえる時間があってよかった。

